

ホルムアルデヒド放散等級

F☆☆☆☆

(ニッペ) 水性2液形セラミックハイブリッド超高耐候超低汚染無機系塗料
パーフェクトセラミックトップG

パークエクトシリーズ究極の塗料で
キラキラ輝く強靭なお住まいに

PERFECT
SERIES
パーカエクトシリーズ[®]

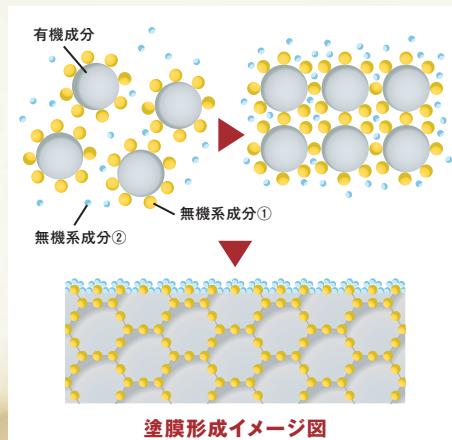
パーカエクトシリーズ[®]

パーエクトシリーズのラジカル制御技術とセラミックハイブリッド技術を融合し、フッ素グレードを超えて、パーエクトシリーズより究極の塗料が誕生しました。

住まいの「美観」をまもり「寿命」も延ばすハイグレード塗料

セラミックハイブリッド無機系塗料とは？

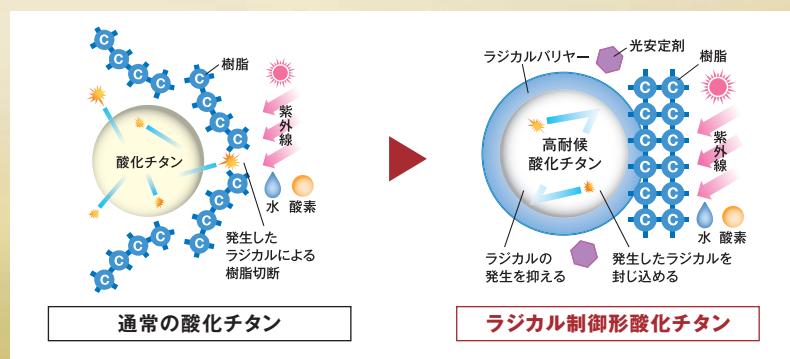
無機塗料は紫外線に強く、高い光沢と不燃性が特長ですがその反面、塗膜の柔軟性を發揮しにくいという性質がありました。そこで無機の固い部分と有機の柔軟部分をハイブリッド化することで「微弾性」の性能が発揮されます。さらに表層に配向した無機系成分②により、超低汚染性を発現します。パーエクトシリーズ究極の高耐久塗料が完成しました。



塗膜形成イメージ図

紫外線に強い「ラジカル制御」技術

高耐候性酸化チタンと光安定剤によるW効果で、耐候性を高める「ラジカル制御」技術により、紫外線に強い強靭な塗膜を形成し、塗り立ての美しさを長期間保ちます。



上塗り塗料のグレードレベル

(当社従来品比)



ウレタン系



シリコン系



ラジカル制御形高耐候性塗料



フッ素系



パーエクトセラミックトップG

ハイブリッド無機系塗料

耐候性がよい

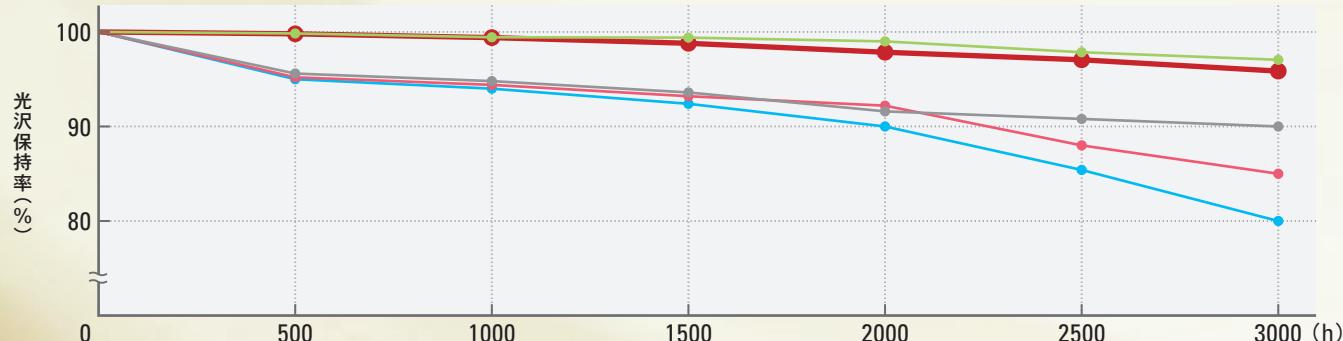
フッ素樹脂塗料を超える 超高耐候性「パーカーフェクトセラミックトップG」

パーカーフェクトセラミックトップGは、促進耐候性試験において優れた耐候性を示しました。

促進耐候性試験

試験方法：キセノンランプ式試験

当社無機塗料
当社フッ素樹脂塗料
当社シリコン樹脂塗料
パーカーフェクトセラミックトップG
パーカーフェクトトップ



*上記の数値は実測値であり、性能を保証するものではありません。

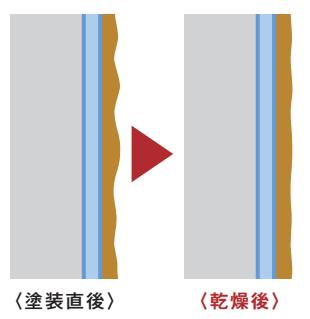
美しいつや

パーカーフェクトセラミックトップGは、専用中塗りと上塗りの高いレベリング性により、つやが優れています。

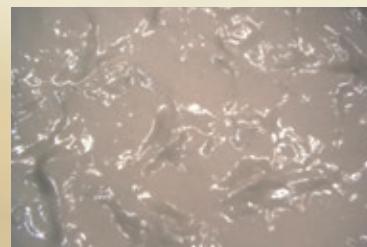
高いレベリング性

当社独自の粘性調整技術により、レベリング性（均一に平らになる力）を向上させ、美しいつやが得られます。

パーカーフェクトシリーズの下塗りとの組み合わせにより、さらに美しいつやになります。



塗膜表面塗料の顕微鏡拡大



パーカーフェクトセラミックトップG(つや有り)
パーカーフェクトフィラー + パーカーフェクトセラミックトップG中塗
+ パーカーフェクトセラミックトップG上塗 なみがた仕上げ



一般水性シリコン塗料(つや有り)

劣化現象例と最適な塗料の組み合わせ

*地域や色相により缶の意匠が異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

コンクリート・モルタル壁面	下塗り	中塗り・上塗り	
ヘヤクラック、汚れ	水性反応硬化形ソフトフィラー パーカーフェクトフィラー ひび割れ追従性に優れ、上塗りの吸い込みが少ないため、仕上がりが良くなります。ローラー塗装が軽く、よく伸びる定番の下塗り塗料です。	弱溶剤2液高付着浸透形ハイブリッドエポキシシーラー ファインパーカーフェクトシーラー 透明・ホワイト 高い浸透性と含浸補強性を持つとともに高い付着力が発現します。 	水性2液形セラミックハイブリッド超高耐候超低汚染無機系塗料 パーカーフェクトセラミックトップG パーカーフェクトフィラー・ファインパーカーフェクトシーラーと組み合わせることで美しいつやのある仕上がりになり、塗りたての美しさを長期間保つことができます。 

窓枠・サイディング壁面	下塗り	中塗り・上塗り	
藻、かび、汚れ	窓枠・サイディングボード改修用下塗材 パーカーフェクトサーフ 抜群の隠ぺい性能で、難しいとされる濃い色から淡い色への塗り替えにも最適です。	弱溶剤2液高付着浸透形ハイブリッドエポキシシーラー ファインパーカーフェクトシーラー 透明・ホワイト 窓枠・サイディングボードの種類・表面の活性状態に付着性が左右されず、各種外壁材に対応可能です。 	水性2液形セラミックハイブリッド超高耐候超低汚染無機系塗料 パーカーフェクトセラミックトップG パーカーフェクトサーフ・ファインパーカーフェクトシーラーと組み合わせることで、サイディングの意匠性を損なわず、発色に優れた仕上がりになります。 

超低汚染性

パーカーフェクトセラミックトップGは、「超低汚染性」(親水性機能)によって、建物外観に付着した汚れを雨とともに洗い流し、美観を維持することができます。

防汚性試験

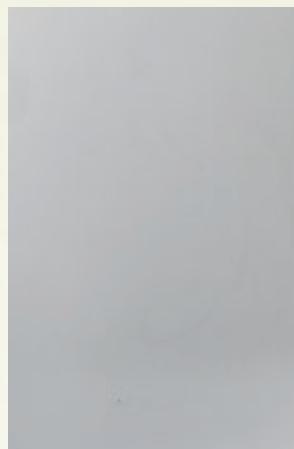
試験方法：当社規格による雨だれ強制汚染試験(6ヶ月経過)

試験条件：〈基材〉スレート〈下塗り〉水性カチオンシーラー透明〈上塗り〉各種上塗り

判定
基準

○：雨だれ汚染がほとんどない

△×：目立つ雨だれ汚染がある(濃い雨だれ汚染がある)



パーカーフェクトセラミックトップG

当社一般低汚染性塗料

燃えにくい

パーカーフェクトセラミックトップGは、無機の特長から燃えにくい塗膜になります。

写真左：
パーカーフェクトセラミックトップG
を塗装した試験体

写真右：
当社一般水性塗料



トーチバーナーで5秒間燃焼した様子(約1700°C)

防藻・防かび機能

藻・かびの発生を抑制し、建物の美観と清潔な環境をまもります。オプションで強力防かびタイプを選択することもできます。

防藻性能試験結果



パーカーフェクトセラミックトップG



当社防藻機能なし 一般塗料

防かび性能試験結果 (試験方法：JIS Z 2911 準拠)



パーカーフェクトセラミックトップG



当社防かび機能なし 一般塗料

透湿性

透湿性があるため塗膜の膨れや剥離を抑制します。

標準塗装仕様(塗り替え)

■コンクリート、モルタル面

工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23°C)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地改修処理	下地改修処理が必要な場合は、下地調整結果に基づいて、塗装工事前に実施する。						
下地調整	ほこり、汚れを除去した後、サンドペーパー、ウエスなどで素地を調整する。						
下塗り	ニッペ パーフェクトフライヤー	1	0.20~0.45	4時間以上	水道水	3~8	ワールローラー
			0.50~0.90			1~5	砂骨ローラー
						2~5	タイルガン
中塗り	ニッペ パーフェクトセラミックトップG 中塗	1	0.14~0.17	3時間以上	水道水	5~10	はけ、ワールローラー、エアレススプレー
上塗り	ニッペ パーフェクトセラミックトップG	1	0.14~0.17	—	水道水	5~10	はけ、ワールローラー、エアレススプレー

■窯業サイディングボード面

工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23°C)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地改修処理	下地改修処理が必要な場合は、下地調整結果に基づいて、塗装工事前に実施する。						
下地調整	ほこり、汚れを除去した後、サンドペーパー、ウエスなどで素地を調整する。						
下塗り	ニッペ パーフェクトサーフ	1	0.20~0.40	3時間以上	水道水	2~5	はけ、ワールローラー
中塗り	ニッペ パーフェクトセラミックトップG 中塗	1	0.14~0.17	3時間以上	水道水	5~10	はけ、ワールローラー、エアレススプレー
上塗り	ニッペ パーフェクトセラミックトップG	1	0.14~0.17	—	水道水	5~10	はけ、ワールローラー、エアレススプレー

※フッ素及び無機コーティングした窯業サイディングボードの場合はニッペ ファインパーフェクトシーラーをご使用ください。

※ニッペ ファインパーフェクトシーラーは夏場(高温下)では、硬化反応が著しく速まるため、中塗りを3日以内に塗り重ねてください。塗り重ね時間を過ぎると、中塗りとの密着性が悪くなります。

その場合は、再度下塗りをするか、ペーパーをかけるなどしてください。

※上塗り材と専用中塗り材では、耐候性・低汚染性などに差があります。上塗り材との区別のため、中塗り材の色相は、上塗りのご指定色に対してわずかに淡彩側にずらした共色にて出荷いたします。

※上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。

塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)

※旧塗膜は健全な状態であることを想定しています。

※カタログに記載されている内容は一般的な環境下での施工を想定して記載しております。

特別な環境が想定される施工現場・部位に塗装される場合は、事前に必ず当社営業までご相談いただきますようお願いします。

適用下塗り塗料

- ニッペ パーフェクトフライヤー
- ニッペ パーフェクトサーフ
- ニッペ ファインパーフェクトシーラー

- 水性カチオンシーラー
- アンダーフィラー弾性エクセル

適用下地(塗り替え改修用)

- 窯業系サイディングボード
- モルタル面
- コンクリート面
- ALCパネル面

各種旧塗膜の上
(高弹性タイプ除く)

塗料性状・荷姿

塗料名	色相	つや	容量	ポットライフ
ニッペ パーフェクトセラミックトップG	各色	つや有り、7分つや有り、5分つや有り、3分つや有り、つや消し	15kgセット (塗料14kg・硬化剤1kg)	6時間以内 (23°C)
ニッペ パーフェクトセラミックトップG 中塗	各色	つや有り	15kg	—

ニッペ パーフェクトセラミックトップG

施工上の要点及び注意事項（詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください）

- 1.中塗りは必ず専用中塗りをご使用ください。
- 2.蓄熱されやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弹性リシン、弹性スタッフ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が剥離していることがあります。そのまま塗装すると剥離がさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の剥離はよく離が生じることがありますので、最寄の営業所などにご相談ください。
- 3.つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通して塗装してください。
- 4.過剰希釈をすると本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。
- 5.つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
- 6.つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かくはんしながらご使用ください。
- 7.防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
- 8.被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が発現されない場合があります。
- 9.塗装面を部分補修する際には、硬化剤の入れ忘れにご注意ください。汚染むら発生の原因になります。
- 10.絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶成分が表面に溶出し、黄色い粘着物などによって析出するおそれがあります。結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
- 11.塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気分を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後拭きして除去してください。
- 12.色相によっては降雨、結露によってぬれ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。
- 13.乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。
- 14.スプレー／ノズルの先端は、ときどき水洗いをしてください。作業能率の低下および塗りむらの原因になります。
- 15.乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じることがあります。時間とともにになります。
- 16.反応硬化タイプの塗料のため、使用後のはけなどはできるだけ早く水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラッカーシンナーで洗浄してください。
- 17.硬化剤は湿気で硬化しますので密栓して貯蔵してください。
- 18.旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
- 19.既存塗膜のはく離個所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- 20.風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ1液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラーをご使用ください。
- 21.シリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
- 22.タイル面の洗浄に使用する薬剤が塗装面に付着すると、変色や早期劣化などを生じることがありますので、この様な場合には薬剤が付着しない様に塗膜面の養生を行なってください。
- 23.素地表面のアルカリ度はPH10以下、表面含水率は10%以下（ケット科学社製CH-2型で測定した場合）、または5%以下（ケット科学社製Hi500シリーズ：コンクリートレンジで測定した場合）の条件で塗装してください。
- 24.表面のごみ、ほこり、エフロレッセンス、レイターンなどは除去し、目違い、ジャンク、コードドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
- 25.ALCO面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント下地調整材（ニッペ1材力チオソフライヤー、ニッペフライヤー200）などで処理してください。（合成樹脂エマルジョンバテの使用は避けください。）
- 26.内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。
- 27.素材にセメント成分などが使われている場合は、エフロレッセンスが発生するおそれがありますので溶剤系シーラーをご使用ください。
- 28.新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ1液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。
- 29.開缶後放置する時は皮が張らないようにボリエチレンシートなどでシールし、保管してください。
- 30.塗装直後から頻繁に人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮脂の影響により塗膜表面の軟化が起るおそれがあります。必要に応じて保護ブレードなどで接触防止を行なってください。
- 31.塗装場所の気温が5°C未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- 32.塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりや作業性が低下することがあります。
- 33.屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- 34.塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- 35.飛散防止のため必ず養生を行なってください。
- 36.シリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シリング材が完全に硬化した後にを行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行なってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- 37.笠木、天端など長時間水が滞留する個所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- 38.薄めすぎは隙間力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- 39.上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。

なお、特に冴えた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠べてできない場合があるため、事前に試験施工塗り板等でご確認ください。

- 40.上塗りは1回仕上げですので原則的に中塗りは共色で塗装してください。特に冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は必ず中塗りを共色塗装してください。
- 41.調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
- 42.濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部屋には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような個所に使用する場合は、ファインシリコンフレッシュクリヤーを上塗りに塗装してください。クリヤーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や渋みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
- 43.大面积の塗装では補修部が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- 44.はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくて塗装してください。
- 45.ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- 46.塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
- 47.汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- 48.ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- 49.可塑剤が多く含まれる塩ビゾル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革、塩ビクロスなどへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようご注意ください。
- 50.平滑上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや巣穴によるビンホール、凹凸などを防止するため、バテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
- 51.塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
- 52.開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- 53.大気中の浮遊鉄粉が多い地域では、この鉄成分が塗膜表面に付着し、塗膜が赤褐色に変色したように見える場合があります。
- 54.塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- 55.製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート（SDS）をご参照ください。

安全衛生上の注意事項

ニッペ パーフェクトセラミックトップG ホワイト 塗料液 横倒禁止
1.使用前に取扱説明書を入手すること。
2.全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
3.粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
4.取り扱い後は、手洗いおよびうがいを十分に行なうこと。
5.この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
6.環境への放出を行なうこと。
7.保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
8.本来の用途以外に使用しないこと。
9.気分が悪い時は、医師の診察／手当を受けること。
10.口をすぐぐすこと。
11.はく露又ははく露の懸念がある場合：医師の診察／手当を受けること。
12.吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
13.容器からこぼれた時には、砂などを散布した後処理すること。
14.施錠して保管すること。
15.直射日光や水濡れは厳禁。
16.塗料等の缶の積み重ねは3段までとすること。
17.内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廻棄すること。

ニッペ パーフェクトセラミックトップG 硬化剤

- 1.使用前に取扱説明書を入手すること。
- 2.全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 3.熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- 4.容器を密閉しておくこと。
- 5.容器を接地しアースすること。
- 6.防腐型の電動機器／換気装置／照明機器を使用すること。
- 7.火花が発生せない工具を使用すること。
- 8.静電気放電に対する措置を講ずること。
- 9.粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
- 10.取り扱い後は、手洗いおよびうがいを十分に行なうこと。
- 11.この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
- 12.屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
- 13.環境への放出を行なうこと。
- 14.保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
- 15.本来の用途以外に使用しないこと。
- 16.気分が悪い時は、医師の診察／手当を受けること。
- 17.特別な処置が必要である。
- 18.口をすぐぐすこと。
- 19.吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 20.はく露又ははく露の懸念がある場合：医師の診察／手当を受けること。

- 21.皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当を受けること。
- 22.眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当を受けること。
- 23.汚染された衣類を脱き、再使用する場合には洗濯すること。
- 24.火災の場合：消火するため適切な手段を使用すること。
- 25.皮膚又是髪に付着した場合：直ちに、汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワードで洗うこと。
- 26.眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していく容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 27.容器からこぼれた時には、布で拭き取って水を張った容器に保管すること。
- 28.施錠して保管すること。
- 29.換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
- 30.直射日光や水濡れは厳禁。
- 31.塗料等の缶の積み重ねは3段までとすること。
- 32.内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廻棄すること。
- 33.塗料、塗料容器、塗装工具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理すること。容器、塗装工具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがあるため、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼すること。

危険	危険有害性情報	危険	危険有害性情報
	遺伝性疾患のおそれ／長期にわたる、又は反復はく露による臓器の障害／長期継続的影響によって水生生物に有害		引火性液体及び蒸気／皮膚刺激／強い眼刺激／吸入すると有害／発がんのおそれ／生殖能又は胎児への悪影響のおそれ／臓器の障害／長期にわたる、又は反復はく露による臓器の障害／水生生物に有害

日本ペイント株式会社

北海道支店 ☎ 011-370-3101 近畿支店 ☎ 06-6455-9320
東北支店 ☎ 022-232-6711 中国支店 ☎ 082-281-2180
関東支店 ☎ 03-5479-3614 四国支店 ☎ 0877-56-2346
北関東信越支店 ☎ 03-5479-3614 九州支店 ☎ 092-751-9861
中部支店 ☎ 052-461-1960

●本カタログの内容については予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
●本カタログ中の製品名・会社名は、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
●©Copyright 2022 NIPPON PAINT Co., Ltd. All rights reserved.
●日本ペイントホームページ https://www.nipponpaint.co.jp/

カタログNo.
NP-A1010
AA220707T
2022年7月現在